南条っ子

南条小学校だより

南条っ子は　進んで学ぶ子
思いやりのある子
力いっぱいやりぬく子

R3.10.6　No.36

目標　ともに学び 豊かな心で未来を切り拓く子の育成

○ 校外学習（２年生）

10月５日（火）、2年生が南条図書館へ行き、図書館内を見学したり、司書（ブックトークでお世話になっています）の方からいろいろと説明を聞いたりしました。

本校には、約12，000冊の本がありますが、南条図書館には約38，000冊と、3倍以上もあります。本校にはない本もたくさんありますので、どんな本があるのか、探すだけでも楽しいかもしれません。「読書の秋」です。これを機に、南条図書館へも出かけ、たくさんの本を借りて読んでほしいと思います。ページ数の多い本にも挑戦してみてはいかがでしょうか。

＜南条図書館からのお知らせ＞

SDGｓをテーマに企画展示を行います！

SDGｓの理念を知り、自分にはどんなことができるのか考える機会になれば幸いです。

南条図書館　９月２２日（水）～１０月２２日（金）

【校長の話】　　保護者向けです。

子供たちの文章読解能力を高めることが課題となっています。算数では、「計算はできるのに文章題になると答えられない」ということがよくあります。文章読解能力が低い原因として、開成学園の元校長の柳沢幸雄さんは、「読んでいる文章の短さが原因だと思います。ツイッターの（書き込みできる）文字数は140文字と制限されています。SNSの投稿やLINEのメッセージも短い。内容もコマ切れになっていて、ひとつのことを長く説明はしていません。読解力をつけるには、やはり長い文章を読み込み、さらにそれをある程度長い文章で書くトレーニングが必要です。」とおっしゃっています。短期間で急に文章読解能力が高めることは難しいですが、学校でも、ご家庭でも小さい頃から時間をかけて取り組めることはあります。

話を聞いてあげると、読解力や作文力は育つ

柳沢さんからのアドバイスです。

「**大事なのは『子供が話す』こと**だと思います。つまり、話し言葉で表現した時に、きちんと相手に伝えることができるようにする。それはどういうことかというと、論理的であるということ。つまり、**『いつ（When）』、『どこで（Where）』、『だれが（Who）』、『何を（What）』、『なぜ（Why）』、『どのように（How）』をしっかりと入れて話すということ**です。こうしたことができるようにするには、**子供が話している内容を真剣に聞いて、分からないことがあったら、親が質問する。これを繰り返すうちに、わかりやすく話すには5W1Hの説明が必要だと自然と理解するようになります。当然、わかりやすい文章も書けるようになります。**」

「**5W1Hをしっかり押さえて話すことが大事だとわかった子は、本を読む時もそれを意識して読めるようになります。今、描かれている場面は、いつのことなのか。「私」はどのように思っているのか。気持ちに変化があったのはいつなのか。それはなぜなのか。こうしたことを確認しながら読むということが、文章の論理構成を把握することであり、読解力につながっていくのです。**」

「**家庭でもっともやるべき教育というのは、子どもに話をさせること**だと思っています。**多くの家では親ばかりが話してしまっていて、子供の話を聞いてあげられていない**んです。だから、私はしばしば学校（開成中学・高校）で保護者の皆さんに『2：1の原則』でいきましょうと伝えています。**子供に2話させて、親が1話しましょう**、と。」

「**じっくり子供の話に耳を傾ける」ただそれだけでいい。5W1Hをひとつずつ質問して、子供から話を引き出せば、自ずと2：1の原則は満たされる。**ただ、親が聞く時に「5W1Hがわからない。」と厳しく子供に指摘するのは避けてください。話すと親がお説教してくると思ったら、子供はもう二度と話したくないと口をつぐんでしまうからです。

本校で指導していること（教室掲示の内容）

＜聴き方のポイント＞

最後まで	（要点）話の中心は
話す人を見て	（推測）言いたいことは
うなずきながら	（共感）なるほど　（感想）～と思いました
	（質問）〇〇さんに質問します
自分と比べて	似ているな　違うな　まだあるよ
まとまりを考えながら	いくつ話す　どんな順で

＜話し方のポイント＞

最後まで	～です　～と思います　わけは、～からです
聴く人を見て	伝わっているかな
ゆっくりはっきり	みんなの反応は
友だちにつなげて	〇〇さんと似ていて
	〇〇さんと違って　〇〇さんに付け足して
順序を考えて	まず～　次に～　最後に～

授業では、聴き方・話し方のポイントの他にも、児童が、「はい」か「いいえ」か、「〇」か「×」かというような短い言葉で答えたり、「〇番を選んだ人は？」に手を挙げたりするだけにならないように工夫して発問するように心がけています。また、「なぜ（どうして）そう思った」と理由を聞いたり、「そのことについて、もう少し詳しく説明してみて」と求めたりしています。（最初から、「～という理由で～だと思いました。」と答えたり、「〇〇さんは、～という理由で～だと思ったそうですが、私はその意見に反対で（私も賛成で）、～という理由で～だと思いました。」という型を身に付けていれば、自然に話す内容が多くなります。）

ご家庭でも、単語で答えるだけなったり、「（親の考えを言って、）こうしなさい」で「はい」と答えるしかないような会話になったりしないように気を付けていただけたらと思います。